

# 西東京市を歩く(2)

## 富士町・中町・東町

2月23日(火) 晴れ

- ★ 前日は2月としては記録的な20℃を越える暖かい日であったが、この日は1月例会と同じように「天気晴朗なれど北風強し」という日であった。しかしさすがに陽光は暖かく、春の到来を感じる日であった。
- ★ 西武柳沢駅前から線路沿いに東伏見方面に歩くとすぐ都立東伏見公園である。ここはかつて都営住宅の「千駄山住宅」があった所で、その後千駄山広場となっていたが、2013年に都立公園として開園した。東伏見稻荷神社の北側に隣接した高台にあるため見晴らしが良い。送電線の鉄塔と都営アパートの間に富士山が見えるが、この日は雲に隠れて見えなかった。
- ★ 千駄山ふれあい歩道橋を渡って西武新宿線を越え、富士街道を東へ進み、果樹園の角を左折し、新青梅街道を横断すると間もなく都市再生機構(UR)の団地「プロムナード東伏見」である。団地内には高齢者センター「きらら」がある。この辺は原田氏の縄張りで、「この肉屋のコロッケが旨い」とか「この店の和菓子が美味しい」などの説明があった。
- ★ プロムナード東伏見を抜けると畑が広がっている。碧山小学校を右手に見ながら北へ向かって進むと突き当たりが碧山森緑地保全地域である。コナラやクヌギの雑木林で、1993年に東京都の緑地保全地域に指定された。すっかり葉を落とした木々の枝が青空に向かって真っすぐ伸びていて清々しい。上空を吹く風がゴォーゴォーと唸りを上げていた。  
この近くにお住いの金子さんは、魔法瓶に入れた熱いコーヒーとお菓子を用意して我々を待っていて下さった。大きな木の切り株をテーブル代わりにしてコーヒーとお菓子を頂いた。寒い日であったので熱いコーヒーがひとときわ美味しかった。金子さん、ありがとうございました。



碧山森緑地でのコーヒータイム



満開の梅

- ★ 碧山森緑地で梶原さんが合流。最近では長距離を歩くのが不安だということで参加されていなかったが、今回は自宅の近くを歩くコースだということで途中からの参加となった。  
碧山森緑地からはなバスの通るやや広い道に出て北へ向かう。道の両側には畑や果樹園が広がっている。明保中学校の北隣が文理台公園である。東京文理科大学(現筑波大学)の運動場があった場所なので「文理台公園」と名付けられた。広場や砂場では子供達が元気に走り回っていた。南側にはソメイヨシノ、西側にはシダレザクラの並木があって、毎年春には花見客で賑

わうという。また小さな梅園もあって、紅白の梅がちょうど見頃であった。

文理台公園と明保中学校の東隣には今も筑波大学附属小学校の保谷田園教場があり、小学生が野菜の収穫などの実習に訪れている。

- ★ 東伏見駅と保谷駅を結ぶかえで通りに出ると「武蔵保谷民俗学博物館跡」という説明板がある。東京帝国大学の学生だった渋沢敬三（渋沢栄一の孫で、後に蔵相、日銀総裁）が集めた動植物の標本や民具などを展示するために、1937年に白鳥庫吉らと民族学博物館を開館した場所である。しかし維持・運営が難しくなったので、すべての資料を文部省資料館に寄贈した。その一部が小金井公園にある江戸東京たてもの園に展示されている。ここから保谷駅は目と鼻の先である。午後3時半頃解散。



文理台公園にて

- ★ 今回のコースの途中には会員の家が多かった。緑色の外壁の滑志田家、外壁がコンクリート打ちっぱなしのモダンな金子家、煉瓦張りの教会風な原田家など、それぞれに個性的な素敵な家であった。

老梅の ピンクしたたか 幹ほこら

木の芽風 陽も差し込んで 保存林 金子 正男

強風の 公園低く 燕来る

老梅の 空洞なれど 八分咲き

春寒や コーヒー差し入れ 散策路 志賀 勉

春塵の 散策の会 黙々と

テーブルは 太き切株 春日影 桑田 青三

写真と文 小島恕雄

参加者 金児利行、金子正男、桑田制三、小島恕雄夫妻、志賀 勉、  
原田一彦、梶原松子、中村仁美

以上9名